第2章 豊後大野市の現状

第1節 豊後大野市の概要

(1) 地勢と交通

豊後大野市は、大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、東西約22 km、南北約31km、総面積は603.14kmであり、県土の9.5%を占めています。

広大な面積を持つ豊後大野市は、多様な地形・地質を有しています。東部は大峰山、佩楯山、西部は阿蘇外輪山のすそ野、北部は神角寺・鎧ヶ岳、南部は祖母・ 傾山、三国峰により囲まれ、盆地状を成しています。起伏に富み、かつ複雑な地形を生かすとともに、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水資源があり、県内屈指の畑作地帯を形成しています。また、神角寺・芹川県立自然公園、祖母・傾県立自然公園、祖母・傾国定公園によって囲まれており、有形、無形の地域資源に恵まれた名水・田園・観光のふるさとでもあります。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じて概ね温暖で、平均降水量は1,770mm~1,910mmとなっています。また、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15~16°Cと極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきました。

交通アクセスは、市内に国道5路線、 県道19路線が主要道路として整備されています。また、大分県と熊本県を 結ぶJR豊肥本線や現在整備されている中九州高規格道路が重要な交通ア クセスとなっています。



また市内には県央飛行場が設置され、県内の防災拠点基地として、また遊 覧飛行などの観光資源としても活用されています。

(2) 人口の推移

住民基本台帳による人口の推移を見ると、総人口は減少傾向が続いており、 令和3年は34,495人となっています。

年齢3区分別人口で見ると、いずれの年齢層でも減少傾向が続いていますが、高齢者人口と比較して年少人口、生産年齢人口ではより速いペースで人口減少が進んでいることがうかがえます。

高齢化率(高齢者人口比率)は上昇傾向が続いており、令和3年3月31日 現在で43.9%となっています。

■総人口と年齢3区分別人口の推移■

単位:人、%

		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
ケルトロ	人口	3,892	3,799	3,677	3,567	3,459	3,358
年少人口	(構成比)	10.3	10.2	10.1	10.0	9.9	9.7
生産年齢	人口	18,682	18,045	17,434	16,858	16,401	16,009
人口	(構成比)	49.4	48.5	47.8	47.2	46.7	46.4
高齢者	人口	15,258	15,371	15,342	15,293	15,231	15,128
人口	(構成比)	40.3	41.3	42.1	42.8	43.4	43.9
総人		37,832	37,215	36,453	35,718	35,091	34,495

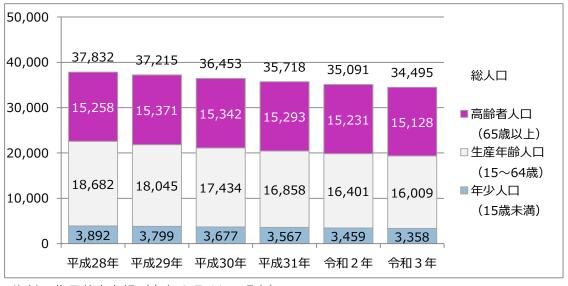
資料:住民基本台帳(各年3月31日現在)

※年齢不詳は除く。

※「年少人口」は 15 歳未満人口、「生産年齢人口」は 15 歳以上 65 歳未満人口、「高齢者人口」は 65 歳以上人口を指す。

■豊後大野市の人口の推移■

単位:人

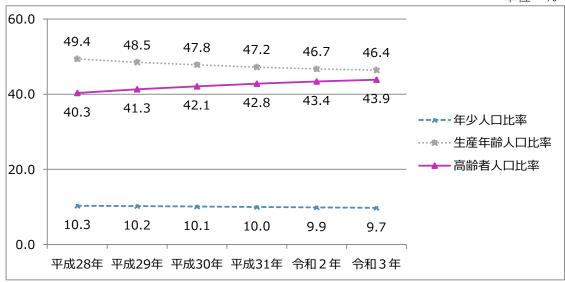


資料:住民基本台帳(各年3月31日現在)

※年齢不詳は除く。

■年齢3区分別人口比率の推移■

単位:%



資料:住民基本台帳(各年3月31日現在)

※年齢不詳は除く。

※端数処理のため年齢3区分別人口比率の和は必ずしも100.0%とならない。



(3)世帯数の推移

本市の世帯数も減少局面にあります。令和2年以降は16,000世帯を下回っています。

1世帯当たり人員数を見ると、平成28年には2.31人でしたが、令和3年には2.16人となっており、核家族化、独居世帯の増加が続いていることがうかがえます。

■世帯数の推移■

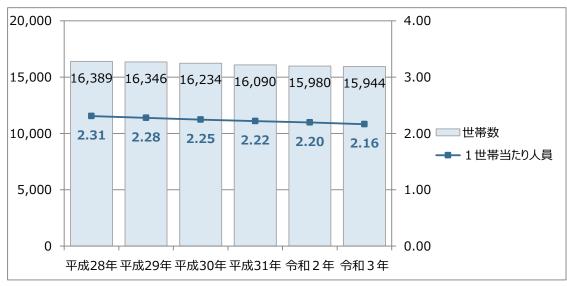
単位:世帯、人

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
総人口	37,832	37,215	36,453	35,718	35,091	34,495
世帯数	16,389	16,346	16,234	16,090	15,980	15,944
1世帯当たり 人員数	2.31	2.28	2.25	2.22	2.20	2.16

資料:住民基本台帳(各年3月31日現在)

■世帯数と平均世帯人員数の推移■

単位:世帯、人



資料:住民基本台帳(各年3月31日現在)

第2節 地域福祉の現状

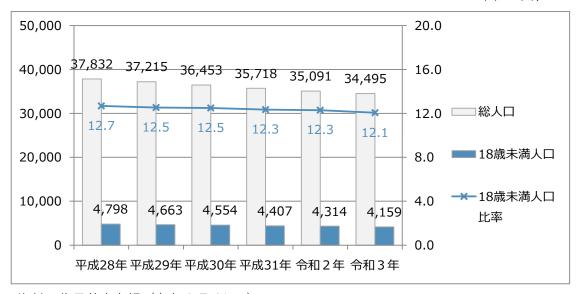
(1) 支援を必要とする人の現状

1. 子ども・子育て世代の状況

本市に居住する18歳未満の人口は令和3年3月31日現在、4,159人となっており、全人口のうち12.1%を占めています。少子化に伴い、18歳未満人口、18歳未満人口比率はともに低下しています。

■総人口と子ども(18 歳未満)人口、子ども人口比率の推移■

単位:人、%

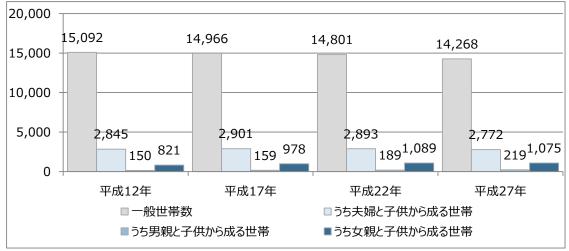


資料:住民基本台帳(各年3月31日)

子どものいる世帯数について見ると、「一般世帯数」とともに、「うち夫婦と子供から成る世帯」は減少傾向にあります。一方で、「うち男親と子供から成る世帯」は増加傾向が続いているほか、「うち女親と子供から成る世帯」は平成22年以降1,000世帯強で横ばいとなっており、ひとり親世帯は増加傾向にあることがわかります。

■子どものいる世帯数の推移■

単位:世帯



資料:国勢調査

地域子育で支援センターの利用状況について見ると、延利用者数は平成31 年にかけて増加していましたが、その後は減少傾向が続いています。

■地域子育て支援センター延利用者数の推移■

単位:人

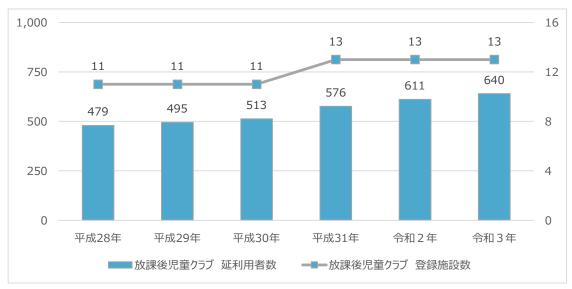


資料:子育て支援課

放課後児童クラブについては、延利用者数の増加が続いており、登録施設数も現在13施設と平成30年以前と比較して増加しており、増大するニーズへの対応も進んでいます。

■放課後児童クラブ延利用者数と登録施設数の推移■

単位:人、か所



資料:子育て支援課

預かり保育の延利用者数は、平成30年と平成31年に9,400人台となるなど、利用が多くなっているのに対し、一時保育は減少傾向が続いています。 それぞれの登録施設数については、大幅な変動は見られません。

■預かり保育と一時保育の延利用者数と登録施設数の推移■

単位:人、か所



資料:子育て支援課

2. 高齢者の状況

高齢者数の推移を見ると、平成28年以降、15,000人台で高止まり傾向を示しています。高齢化の進行には歯止めがかからない状態が続いており、高齢化率も令和3年には43.9%となっています。

令和3年には75歳以上の後期高齢者人口が10,000人を突破しています。

■高齢者人口と高齢化率の推移■

単位:人、%

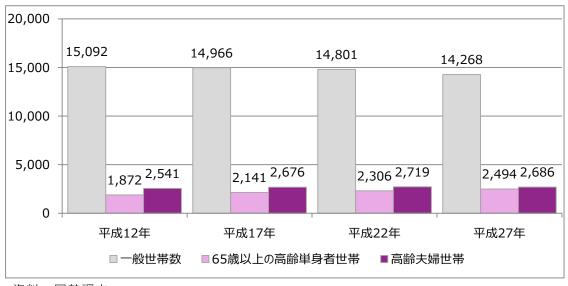


資料:住民基本台帳(各年3月31日)

また、高齢者のいる世帯について見ると、「65歳以上の高齢単身者世帯」、「高齢夫婦世帯」は増加傾向が続いています。

■高齢者のいる世帯数の推移■

単位:世帯



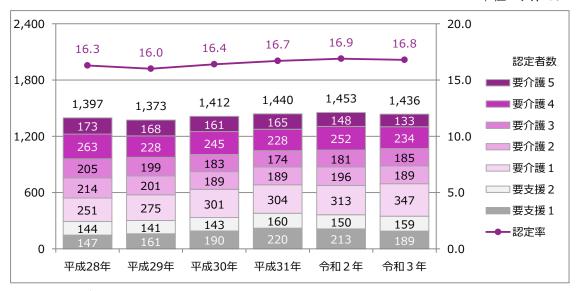
資料:国勢調査

平成28年から令和3年における要介護(要支援)認定者数について見ると、 平成30年以降は1,400人台で高止まり傾向が続いています。認定率も上昇傾向 が続いており、16%台で推移しています。

令和7年には団塊の世代が75歳以上(後期高齢者)となることが見込まれており、要介護(要支援)認定者数の増加は今後も続くと想定されます。

■要介護(要支援)認定者数の推移■

単位:人、%



資料:地域包括ケアシステム見える化システム

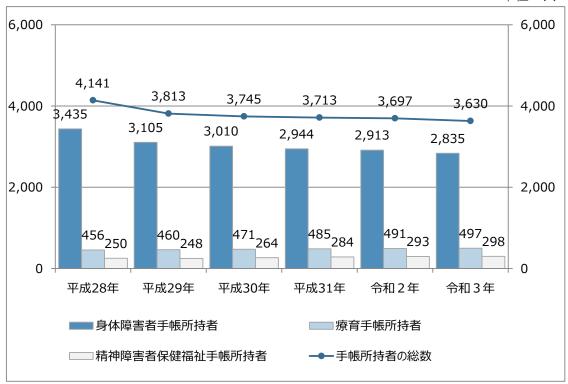
3. 障がい者の状況

本市に居住する障害者手帳の所持者数(総数)の推移を見ると、一貫して減少傾向にあります。身体障害者手帳所持者数は減少傾向で推移していますが、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者は微増となっています。

なお、手帳を所持していない人であってもそれぞれの状況に応じて一部のサービスを利用することができます。特に発達に不安を抱える児童などでは手帳を取得していないケースが多いため、実際に何らかのサービスを必要とする人は統計上の手帳所持者数よりも多くなっています。

■障害者手帳所持者数の推移■

単位:人



資料:福祉行政報告例

また、手帳所持者の年齢構成を見ると、令和3年においては18歳未満の身体障害者手帳所持者が身体障害者手帳所持者全体に占める割合は1%程度であり、身体障害者手帳所持者のほとんどが18歳以上の障がい者であることがわかります。

療育手帳所持者について見ると、18歳未満では横ばいとなっていますが、 18歳以上では増加傾向が続いています。

■障がい者の手帳所持者数の年齢別推移■

単位:人

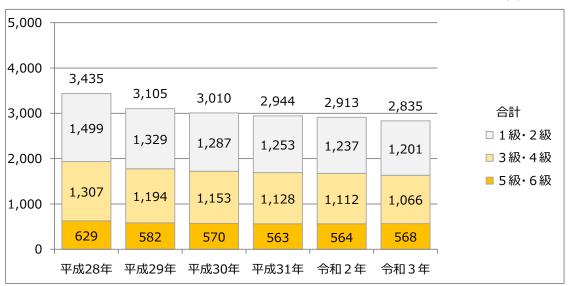
		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
	18 歳未満	25	23	28	29	29	28
身体障害者	18~64 歳	536	455	446	425	417	410
手帳所持者	65 歳以上	2,874	2,627	2,536	2,490	2,467	2,397
	計	3,435	3,105	3,010	2,944	2,913	2,835
+ + - 15	18 歳未満	79	82	87	94	92	92
療育手帳 所持者	18 歳以上	377	378	384	391	399	405
加切有	計	456	460	471	485	491	497

資料:福祉行政報告例

身体障害者手帳所持者数をその等級別に見ると、比較的「1級・2級」と「3級・4級」の減少幅が大きくなっています。

■等級別に見た身体障害者手帳所持者数の推移■

単位:人



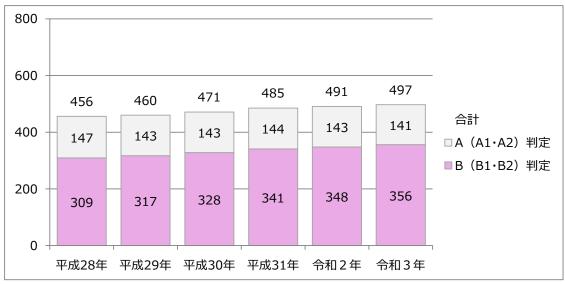
資料:福祉行政報告例

※等級の値が小さくなるほど、障がいの程度が重度であることを示す。

療育手帳所持者数をその等級別に見ると、A $(A1 \cdot A2)$ 判定は140人程度で横ばいとなっているのに対し、B $(B1 \cdot B2)$ 判定は増加傾向が続いています。

■等級別に見た療育手帳所持者数の推移■

単位:人



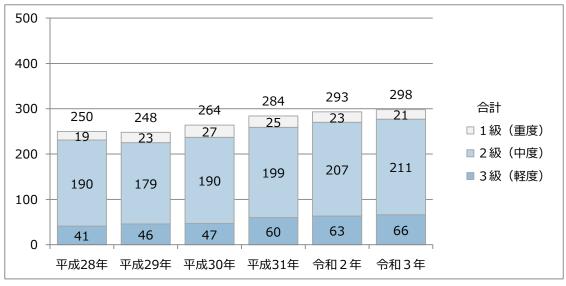
資料:福祉行政報告例

※A1 は総合最重度、A2 は総合重度、B1 は総合中等度、B2 は総合軽度の判定を示す。

精神障害者保健福祉手帳所持者数をその等級別に見ると、1級(重度)は平成30年以降わずかに減少していますが、2級(中度)、3級(軽度)は継続的に増加していることがわかります。

■等級別に見た精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移■

単位:人



資料:大分県豊肥保健所報告

4. その他支援を必要とする人

生活保護の受給世帯と世帯に属する人員は以下のとおりです。生活保護世帯数は概ね450世帯前後、世帯人員概ね550人前後で推移しており、ともに横ばいとなっています。

■生活保護の受給世帯数と世帯に属する人員の推移■

単位:世帯、人

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
世帯数	445	440	445	453	460	439
世帯人員	552	548	550	557	558	530

資料:被保護者世帯調査台帳 DATA

本市の自殺者数と自殺死亡率については、以下のようになっています。平成30年以降、やや増加傾向がうかがえます。

■自殺者数と自殺死亡率の推移■

単位:人

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
自殺者数	7	5	3	4	6	8
自殺死亡率	18.1	13.1	8.0	10.9	16.7	22.6

資料:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(注) 自殺死亡率は人口 10 万人当たりの自殺者数を示す。

(2) 地域福祉を支える人の現状

1. 民生委員・児童委員

民生委員⁴・児童委員⁵数については、近年は150人程度で推移しており、大きな変化はありません。

■民生委員・児童委員数の推移■

単位:人

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
民生委員・ 児童委員数	151	151	151	151	150	150

資料:福祉行政報告例

2. ボランティア団体

ボランティア団体数の推移を見ると、平成29年7月九州北部豪雨の影響により、登録団体数、登録者数の一時的な増加が見られました。個人での登録は平成29年から平成30年にかけて37人から16人と急激な減少がありましたが、令和3年には35人となっています。

■ボランティアの推移■

単位:団体、人

		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和2年	令和3年
<i>5</i> °. 1 →°	団体数	29	32	21	15	24	19
グループ	所属する 人数	545	667	321	372	531	413
個	人	35	37	16	25	36	35
登録人数	枚の合計	580	704	337	397	567	448

資料: 豊後大野市社会福祉協議会(各年4月1日)

⁴それぞれの地域において常に住民の立場で相談に応じ、必要な支援をする人。厚生労働大臣から委嘱されており、児童委員と兼任している。

⁵ 地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるよう、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援などを行う人。一部の児童委員は児童に関することを専門的に担当する「主任児童委員」として指名されている。

(3) 市民アンケート調査の結果

1. 調査の概要

本計画を策定するにあたり、地域での生活や福祉活動に関する状況を把握するため、一般市民を対象とするアンケート調査を実施しました。

調査の実施概要は以下のとおりです。

■調査の実施概要■

項目	内容		
調査対象	18歳以上の豊後大野市民		
配布数	1,000票		
回収数 (回収率)	435票(43.5%)		
抽出法	無作為抽出		
調査方法	郵送法		
調査時期	令和 3 年 8 月		
調査地域	豊後大野市全域		

2. 調査結果(概要)

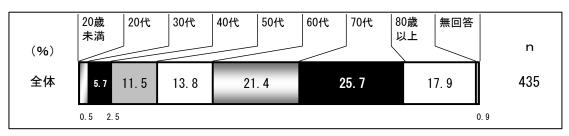
<回答者の属性>

回答者の属性は以下のとおりです。 高齢の市民による回答が多くなっています。

■回答者の性別■



■回答者の年齢■

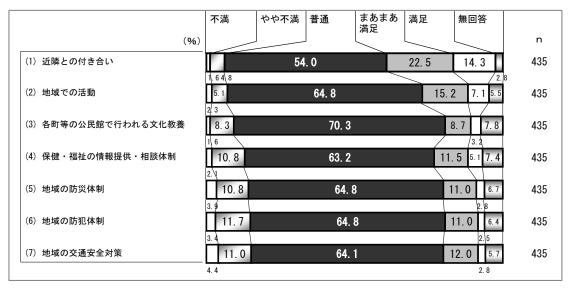


<地域の満足度>

地域の満足度についてたずねたところ、近隣との付き合いについては、"満足"(「まあまあ満足」または「満足」)と回答した人の割合が他項目より高く、36.8%となっています。

一方で、地域の防災体制や地域の防犯体制、地域の交通安全対策については、"不満"の割合(「不満」と「やや不満」の合計)が"満足"をわずかに上回る結果となっており、防災や防犯・交通安全対策の強化が求められています。

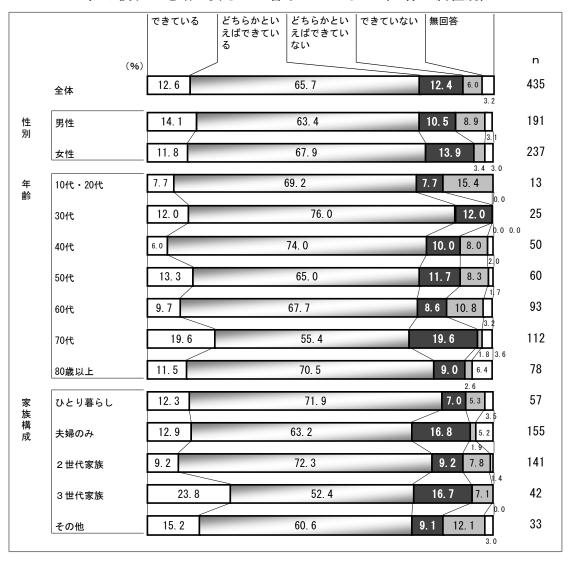
■地域の満足度(全体)■



<住み慣れた地域で安心して暮らせているか>

住み慣れた地域で安心して暮らせているかたずねたところ、"できている" (「できている」または「どちらかといえばできている」)と回答した人は全体の78.3%、"できていない"(「どちらかといえばできていない」または「できていない」)と回答した人は全体の18.4%を占めています。

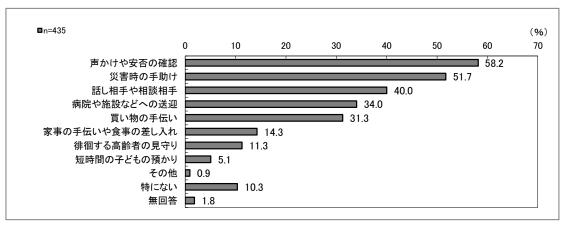
■住み慣れた地域で安心して暮らせているか(全体・属性別)



<地域でどんな手助けをしてほしいか>

自身や家族に地域でどんな手助けをしてほしいかたずねたところ、「声かけや安否の確認」(58.2%)が最も多く、次いで「災害時の手助け」(51.7%)、「話し相手や相談相手」(40.0%)などとなっています。

■地域でどんな手助けをしてほしいか(全体/複数回答)■

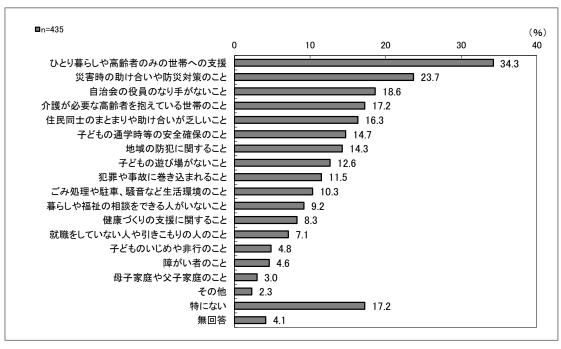


<地域で気になっている問題>

地域で気になっている問題については、「ひとり暮らしや高齢者のみの世帯への支援」(34.3%)が最も多く、次いで「災害時の助け合いや防災対策のこと」(23.7%)、「自治会の役員のなり手がないこと」(18.6%)などとなっています。

10代から40代までの若年層では「子どもの遊び場がないこと」や「子どもの通学時等の安全確保のこと」が第1位となっており、子育て環境への関心が高いことがうかがえます。

■地域で気になっている問題(全体/複数回答)■



■地域で気になっている問題(全体・属性別―上位3項目/複数回答)■

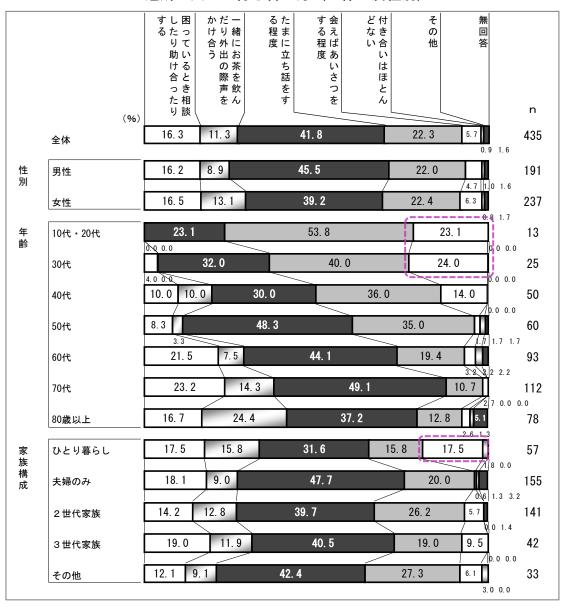
単位:%

		第1位	第 2 位	第3位
	全体	の世帯への支援	災害時の助け合いや防災対 策のこと	目冶会の佼員のなり手かな
	主体	34.3	東のこと 23.7	18.6
			災害時の助け合いや防災対	
	 男性	の世帯への支援	策のこと	いこと
	77 12	38.2	26.2	22.0
性			災害時の助け合いや防災対	
別	, ,,	の世帯への支援	策のこと	合いが乏しいこと/自治会
	女性			の役員のなり手がないこと
		31.2	20.7	15.6
		子どもの遊び場がないこと	子どもの通学時等の安全確	
			保のこと	の世帯への支援/ごみ処理
	10代・			や駐車、騒音など生活環境
	20代			のこと/災害時の助け合い
				や防災対策のこと/犯罪や
		38.5	30.8	事故に巻き込まれること 23.1
			災害時の助け合いや防災対	
		保のこと		の世帯への支援/犯罪や事
	30代	N O C C		故に巻き込まれること/地
	0010			域の防犯に関すること
		32.0	28.0	20.0
		子どもの通学時等の安全確	自治会の役員のなり手がな	ひとり暮らしや高齢者のみ
年齢	40代	保のこと	いこと	の世帯への支援/災害時の
齢	7016			助け合いや防災対策のこと
		30.0	28.0	
	50 /IV		介護が必要な高齢者を抱え	
	50代	の世帯への支援	ている世帯のこと	策のこと
		40.0	25.0 災害時の助け合いや防災対	23.3
	60代	の世帯への支援	灰古时の助り古いで防火剤 策のこと	Ti設が必要な同断有を抱え ている世帯のこと
	0016	39.8	22.6	19.4
			住民同士のまとまりや助け	
	70代	の世帯への支援	合いが乏しいこと	策のこと
		34.8	27.7	21.4
		ひとり暮らしや高齢者のみ	災害時の助け合いや防災対	住民同士のまとまりや助け
	80歳以上	の世帯への支援	策のこと	合いが乏しいこと
		37.2	25.6	16.7

<近所の人との付き合い方>

近所の人との付き合い方については、若年層ほど近所との付き合いが希薄な傾向にあり、30代以下では「付き合いはほとんどない」が2割強を占めています。また、家族構成で見ると、ひとり暮らしでは「付き合いはほとんどない」が17.5%を占めており、若年層やひとり暮らしなどは孤立傾向が強いことがうかがえます。

■近所の人との付き合い方(全体・属性別)■

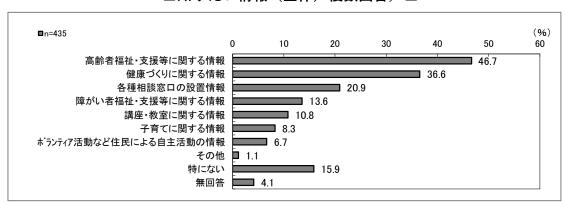


<知りたい情報>

知りたい情報についてたずねたところ、「高齢者福祉・支援等に関する情報」(46.7%)が第1位となっています。

年齢で見ると、40代以下では「子育てに関する情報」が第1位となっています。年齢等属性に応じた広報が求められます。

■知りたい情報(全体/複数回答)■



■知りたい情報(全体・属性別―上位3項目/複数回答)■

単位:%

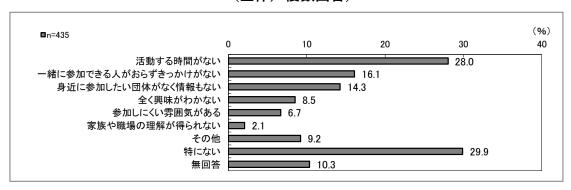
		第1位	第 2 位	第 3 位
	全体	高齢者福祉・支援等に関す る情報 46.7	健康づくりに関する情報 36.6	各種相談窓口の設置情報 20.9
		高齢者福祉・支援等に関す		
	男性	る情報		
性		50.8	41.4	19.9
別	女性	高齢者福祉・支援等に関する情報	健康づくりに関する情報	各種相談窓口の設置情報
		42.6	32.9	22.4
	10代・	子育てに関する情報	各種相談窓口の設置情報	障がい者福祉・支援等に関 する情報
	20代	38.5	30.8	23.1
	30代	子育てに関する情報	健康づくりに関する情報	講座・教室に関する情報/ 各種相談窓口の設置情報
		44.0	36.0	24.0
	40代	子育てに関する情報	高齢者福祉・支援等に関する情報	各種相談窓口の設置情報
		30.0	26.0	22.0
年齢	50代	高齢者福祉・支援等に関す る情報	健康づくりに関する情報	各種相談窓口の設置情報
掛甲		40.0	38.3	31.7
	60代	高齢者福祉・支援等に関する情報	健康づくりに関する情報	各種相談窓口の設置情報
		57.0	40.9	21.5
	70代	高齢者福祉・支援等に関す る情報	健康づくりに関する情報	各種相談窓口の設置情報
		51.8	38.4	18.8
	80歳以上	高齢者福祉・支援等に関す る情報	健康づくりに関する情報	各種相談窓口の設置情報
		57.7	43.6	12.8

<地域活動に参加する際に苦労することや参加できない理由>

地域活動に参加する際に苦労することや参加できない理由についてたずねたところ、20代から60代では「活動する時間がない」が第1位となっているのに対し、70代では「一緒に参加できる人がおらずきっかけがない」、「身近に参加したい団体がなく情報もない」が第1位となっています。

また、ひとり暮らし世帯では「一緒に参加できる人がおらずきっかけがない」が第1位となっています。

■地域活動に参加する際に苦労することや参加できない理由■ (全体/複数回答)



■地域活動に参加する際に苦労することや参加できない理由■ (全体・属性別―上位3項目/複数回答)

単位:%

		第1位		第2位	第3位
	全体	活動する時間がない		一緒に参加できる人がおら ずきっかけがない	身近に参加したい団体がな く情報もない
			28.0	16.1	14.3
	男性	活動する時間がない		身近に参加したい団体がな く情報もない	一緒に参加できる人がおら ずきっかけがない
性			28.3	14.1	12.6
別	女性	活動する時間がない		一緒に参加できる人がおら ずきっかけがない	身近に参加したい団体がな く情報もない
			27.8	18.6	14.3

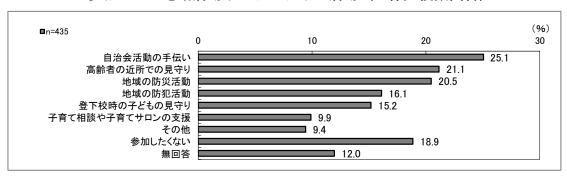
		第1位	第2位	第3位
年齢	10代・ 20代	身近に参加したい団体がたない	ょく情報もない/活動する時	間がない/全く興味がわか
	2016	活動する時間がない	 │一緒に参加できる人がおら	30.8
	30代		ずきっかけがない	土く無外がわがない
		40.		
	40代	活動する時間がない	全く興味がわかない	身近に参加したい団体がな く情報もない
		50.		=
	50代	活動する時間がない	一緒に参加できる人がおら ずきっかけがない	身近に参加したい団体がな く情報もない
齢	3010	46.	7 20.0	18.3
	60代	活動する時間がない	身近に参加したい団体がな できる人がおらずきっかけ	:く情報もない/一緒に参加がない
	0016	31.:		12.9
	70/1	一緒に参加できる人がおらずきっかけがない	活動する時間がない	身近に参加したい団体がな く情報もない
	70代	19.	15.2	
	80歳以上		一緒に参加できる人がおら	活動する時間がない
		く情報もない 15.	ずきっかけがない 4 14.1	10.3
	ひとり 暮らし	一緒に参加できる人がおら		身近に参加したい団体がな
		ずきっかけがない 26.	22.8	く情報もない 10.5
	夫婦のみ	活動する時間がない	一緒に参加できる人がおら	身近に参加したい団体がな
		20.	ずきっかけがない 5 13.5	く情報もない 12.3
家族	2世代家族	活動する時間がない		ずきっかけがない/全く興
構成		38.	味がわかない	13.5
	3世代家族	 身近に参加したい団体がな		一緒に参加できる人がおら
		く情報もない	22.0	ずきっかけがない
	その他	活動する時間がない	23.8 身近に参加したい団体がな	21.4 一緒に参加できる人がおら
			く情報もない	ずきっかけがない
		36.	4 18.2	15.2

<参加したい地域活動やボランティア活動>

参加したい地域活動やボランティア活動についてたずねたところ、「自治会活動の手伝い」(25.1%)が最も多く、次いで「高齢者の近所での見守り」(21.1%)、「地域の防災活動」(20.5%)などとなっています。「参加したくない」は18.9%となっています。

男性では「自治会活動の手伝い」、女性では「高齢者の近所での見守り」 が第1位となっています。

■参加したい地域活動やボランティア活動(全体/複数回答)■



■参加したい地域活動やボランティア活動■ (全体・属性別―上位3項目/複数回答)

単位:%

		第1位		第2位		第3位
全体		自治会活動の手伝い	25.1	高齢者の近所での見守	り 21.1	地域の防災活動 20.5
性	男性	自治会活動の手伝い	31.9	地域の防災活動	29.8	地域の防犯活動 26.7
別	女性	高齢者の近所での見守		自治会活動の手伝い	19.8	登下校時の子どもの見守り 15.6
年齢	10代· 20代	地域の防災活動	23.1	自治会活動の手伝い	15.4	高齢者の近所での見守り/ 子育て相談や子育てサロン の支援/登下校時の子ども の見守り/地域の防犯活動 7.7
	30代	子育て相談や子育てサ		」 の支援/地域の防災活動		登下校時の子どもの見守り 28.0
	40代	登下校時の子どもの見	守り 26.0	地域の防災活動	20.0	子育て相談や子育てサロン の支援 18.0
	50代	地域の防災活動	33.3	登下校時の子どもの見		
	60代	自治会活動の手伝い	38.7	高齢者の近所での見守	29.0	地域の防犯活動/地域の防 災活動 24.7
	70代	自治会活動の手伝い	28.6	高齢者の近所での見守		地域の防犯活動 16.1
	80歳以上	自治会活動の手伝い	24.4	高齢者の近所での見守	り 19.2	地域の防災活動 10.3

<身近で不安に感じる災害>

身近で不安に感じる災害については、「地震」(83.2%)が最も多い回答となっています。

■n=435 (%) 70 0 10 20 30 40 50 60 80 90 地震 ■ 83.2 台風 57.5 豪雨 28.0 火災 **24.6** 洪水 その他 0.7 無回答 🗖 2.1

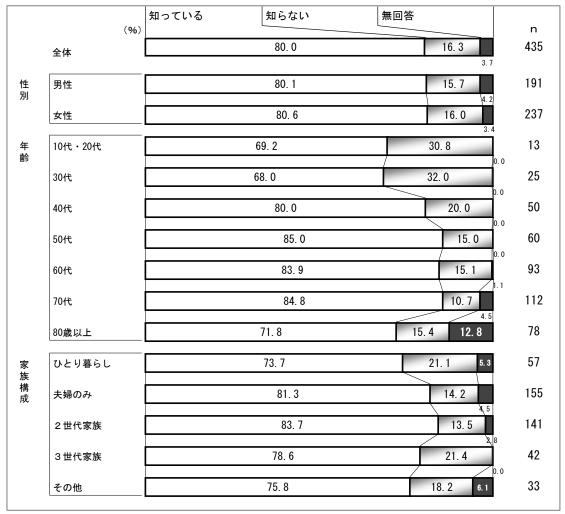
■身近で不安に感じる災害(全体/複数回答)■

<災害時の避難場所を知っているか>

地域における災害時の避難場所を知っているかたずねたところ、「知っている」は80.0%、「知らない」は16.3%となっています。

特に10代・20代と30代では「知らない」が3割以上を占めており、避難場所の認知度が特に低い世代であることがうかがえます。

■災害時の避難場所を知っているか(全体・属性別)■



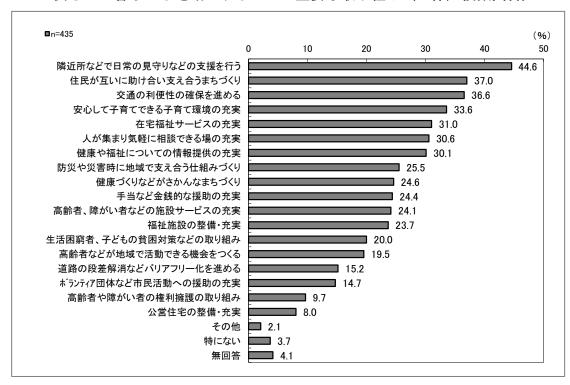
<誰もが安心して暮らせる地域にするために重要な取り組み>

誰もが安心して暮らせる地域にするために重要な取り組みについては、「隣近所などで日常の見守りなどの支援を行う」(44.6%)と「住民が互いに助け合い支え合うまちづくり」(37.0%)が上位となっており、身近な地域における住民同士の助け合いを重視する回答者が多くなっています。

このほか、「交通の利便性の確保を進める」(36.6%)や「安心して子育てできる子育て環境の充実」(33.6%)も上位となっています。

30代、40代では「安心して子育てできる子育て環境の充実」が第1位となっています。

■安心して暮らせる地域にするために重要な取り組み(全体/複数回答)■





■誰もが安心して暮らせる地域にするために重要な取り組み■ (全体・属性別―上位3項目/複数回答)

単位:%

		第1位	第 2 位	第3位
全体		などの支援を行う 44.6		る 36.6
性別	男性	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う 44.5	交通の利便性の確保を進める 38.2	住民が互いに助け合い支え 合うまちづくり 37.7
	女性	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う 44.7	住民が互いに助け合い支え合うまちづくり 35.9	安心して子育てできる子育 て環境の充実/交通の利便 性の確保を進める 35.0
	10代・ 20代		安心して子育てできる子育 て環境の充実	
	30代		交通の利便性の確保を進める 44.0	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う
年齢	40代	安心して子育てできる子育 て環境の充実 64.0	手当など金銭的な援助の充 実 46.0	3
	50代	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う 43.3	在宅福祉サービスの充実/る	交通の利便性の確保を進め 38.3
	60代		住民が互いに助け合い支え 合うまちづくり	交通の利便性の確保を進める 40.9
	70代	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う 45.5	住民が互いに助け合い支え 合うまちづくり 39.3	る場の充実
	80歳以上	隣近所などで日常の見守り などの支援を行う 46.2	在宅福祉サービスの充実 37.2	交通の利便性の確保を進め る 34.6

(4) 関係団体調査と民生委員・児童委員アンケート調査の結果

1. 調査の概要

本計画を策定するにあたり、市内で活動する福祉団体及び民生委員・児童 委員を対象にアンケートを実施しました。

調査の実施概要は以下のとおりです。

■調査の実施概要■

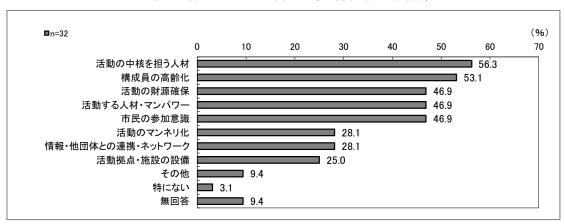
項目	関係団体	民生委員・児童委員
調査対象	市内で活動する 福祉団体等	民生委員・児童委員
配布数	36票	150票
回収数(回収率)	32票(88.9%)	130票(86.7%)
抽出法	全数配布	全数配布
調査方法	メール/郵送による 配布・回収	定時民生児童委員会に おいて配布・回収
調査時期	令和3年7月	令和3年8月

2. 関係団体調査結果(概要)

<現在の活動における課題>

現在の活動における課題として、「活動の中核を担う人材」(56.3%)や「構成員の高齢化」(53.1%)を挙げる団体が多くなっています。

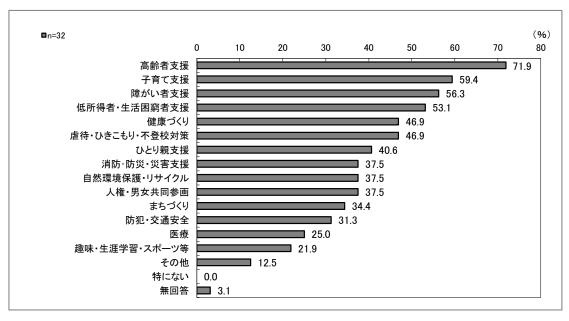
■現在の活動における課題(全体/複数回答)■



<市が力を入れるべき取り組み>

市が力を入れるべき取り組みについては、「高齢者支援」(71.9%)が最も多く、「子育て支援」(59.4%)、「障がい者支援」(56.3%)などが続いています。

■市が力を入れるべき取り組み(全体/複数回答)■

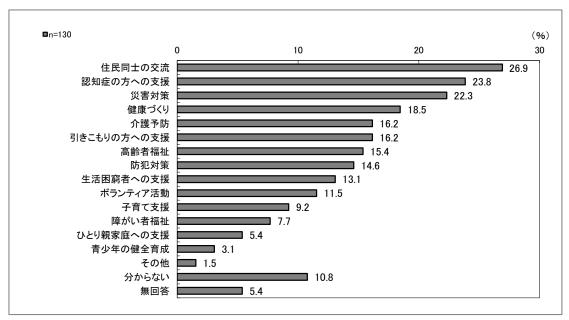


3. 民生委員・児童委員調査結果(概要)

<地域で不足している福祉活動>

地域で不足している(今後充実する必要がある)福祉活動についてたずねたところ、「住民同士の交流」(26.9%)が最も多く、次いで「認知症の方への支援」(23.8%)、「災害対策」(22.3%)などとなっています。

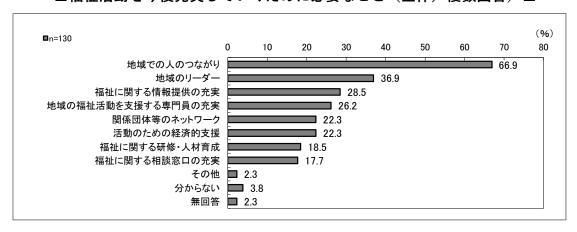
■地域で不足している福祉活動(全体/複数回答)■



<福祉活動を今後充実していくために必要なこと>

福祉活動を今後充実していくために必要なことについてたずねたところ、「地域での人のつながり」(66.9%)が他の項目を大きく引き離して最も多い回答となっています。

■福祉活動を今後充実していくために必要なこと(全体/複数回答)■



<福祉に関する相談で多いもの>

福祉に関する相談で多いものをたずねたところ、「高齢者福祉」(60.0%) が他を大きく引き離して最も多くなっており、次いで「認知症の方への支援」 (26.2%)、「介護予防」・「健康づくり」(同率13.1%)などとなっていま す。高齢者に対する支援を求める相談が多いことがうかがえます。

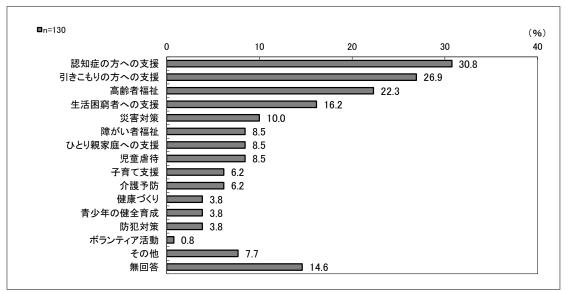
■n=130 (%) 0 10 20 30 40 50 60 70 60.0 高齢者福祉 認知症の方への支援 26.2 介護予防 健康づくり 131 生活困窮者への支援 11.5 子育て支援 7.7 引きこもりの方への支援 77 ひとり親家庭への支援 6.9 防犯対策 **6.2** 障がい者福祉 **4**.6 災害対策 **4.6** ボランティア活動 3.8 青少年の健全育成 2.3 児童虐待 0.8 その他 3.1 無回答 9.2

■福祉に関する相談で多いもの(全体/複数回答)■

<解決するのが難しい相談>

解決するのが難しい相談については、「認知症の方への支援」(30.8%)が 最も多く、次いで「引きこもりの方への支援」(26.9%)、「高齢者福祉」 (22.3%) などとなっています。

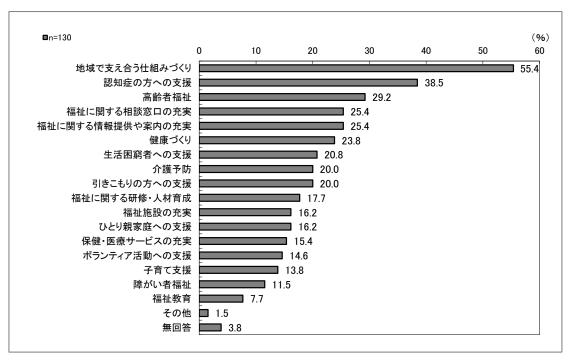
■解決するのが難しい相談(全体/複数回答)■ **■**n=130



< 今後力を入れるべき市の福祉施策 >

今後力を入れるべき市の福祉施策として最も回答が多かったのは「地域で支え合う仕組みづくり」(55.4%)となっています。「認知症の方への支援」(38.5%)や「高齢者福祉」(29.2%)も比較的回答が多くなっています。

■今後力を入れるべき市の福祉施策(全体/複数回答)■



(5) 統計データとアンケート調査結果から見た豊後大野市の課題

1. 地域の防災対策や防犯体制、交通安全対策の向上及び公共交通対策の推進 市民アンケートでは、地域の防災体制や防犯体制、交通安全対策について "不満"が"満足"をわずかに上回るなど、満足度が低い結果となっています。

不安に感じる災害として「地震」を挙げる人が非常に多く、特に30代以下では災害時の避難場所を「知らない」回答者が3割以上を占めていることから、避難所・福祉避難所の周知、防災訓練への参加や住宅の耐震化など、災害への備えを強化する必要があります。また、防犯体制や交通安全対策についても満足度が低い結果となっており、ボランティア等との協力のもと、見守りや啓発を充実させていく必要があります。

また、市民アンケートでは、誰もが安心して暮らせる地域にするための重要な取り組みとして「交通の利便性の確保を進める」が上位に挙げられています。高齢者の運転免許証返納件数が全国的に増加傾向にある中で、交通手段の確保と利便性の確保は、地域活動への参加促進にも不可欠な取り組みといえます。

2. 地域とのつながりの希薄化への対応

市民アンケートでは、近隣との付き合いについて"満足"が36.8%と比較的高い結果となっていますが、近所の人との付き合い方について、ひとり暮らし世帯では「付き合いはほとんどない」が17.5%となっており、他よりも高い割合を占めています。また、地域活動に参加できない要因として、ひとり暮らし世帯では「身近に一緒に参加できる人がいない」が最も多くなっています。しかしながら、困り事を抱える人たちから助けの求めがあったとき「積極的に対応したい」または「できるだけ対応したい」と回答した人は合計で86.2%を占めています。

さらに、民生委員・児童委員を対象とするアンケートでも、福祉活動の充実に必要なこととして「地域での人のつながり」を挙げる回答が多いほか、今後力を入れるべき市の福祉施策として「地域で支え合う仕組みづくり」を挙げる回答が全体の半数以上であったことから、地域活動への積極的な参加を呼びかけるだけではなく、住民が参加しやすい活動環境の整備、特にひとり暮らし世帯等の地域活動への参加促進を図っていく必要があります。

3.30代、40代を中心とする子育て環境の充実へのニーズへの対応

市民アンケートでは、誰もが安心して暮らせる地域にするための重要な取り組みとして、30代、40代では「安心して子育てできる子育て環境の充実」が第1位となっています。また、若年層では地域で気になっている問題として、「子どもの通学時の安全確保のこと」や「子どもの遊び場がない」こと

が上位となっているなど、40代以下では子育て支援への関心や問題意識が高いことがうかがえます。

本市においても、核家族化やひとり親世帯の増加傾向が続いており、「孤育て」状態にある家庭も少なくないと見込まれています。また、関係団体調査では、各家庭が情報交換や交流できる場が少ないこと、個別ニーズに対して相談助言等の支援体制不足などの課題が挙げられており、「子育て世代包括支援センターきらきら☆」による妊娠期から子育て期にわたる総合的相談体制の提供、切れ目のない支援の重要性が高まっています。

4. 健康づくりと介護予防への対応

市民アンケートでは、毎日の暮らしの中で感じている悩みや不安については、「自分の健康のこと」が第1位という結果となっています。続いて「老後のこと」「家族の健康のこと」が挙がっています。また、どのような情報を知りたいかについては、「健康づくりに関する情報」が、「高齢者福祉・支援等に関する情報」に次ぐ高い割合となっています。

さらに、団体調査や、民生委員・児童委員を対象とするアンケートでも、 今後力を入れるべき市の福祉施策として「健康づくり」と「介護予防」が上 位に挙げられており、市民の健康に対する悩みや不安それぞれに対応した、 適切な情報の提供・相談体制及び、健康増進と介護予防を一体的に実施する、 健康寿命延伸の取り組み強化が必要です。

5. 地域福祉の担い手の不足

市民アンケートでは、誰もが安心して暮らせる地域にするため重要な取り 組みとして、「住民が互いに助け合い支え合うまちづくり」が上位に挙げられています。

また、関係団体調査では、現在の活動における課題として、「活動の中核を担う人材」や「構成員の高齢化」を挙げる団体が多く、自由回答でも会員の高齢化による担い手不足を課題として挙げる団体が複数見られます。地域での支え合いを進めていくためには、「支え手」と「受け手」という関係を超えて、地域の住民が役割を持ち、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく地域共生社会の構築への取り組みが必要です。